

# ぎやらりー わ

NO. 60

2012年10月号



●花の村内散歩 メキシカンセージ(本館前で)

編集・発行 NPO法人グループわ (西田圭一) ホームページ <http://www.wa-net.jp>  
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



銭太鼓にチャレンジする仮設住宅の皆さん(7月8日・石巻バイパス西で)

## 東北へ第3次隊、15か所で公演

「あっ、シルバーの人や。また来てくれてありがとう」――グループ〈わ〉の第3次東北支援チームは、7日間の日程を終え7月13日、元気に帰ってきました。今回は、昨秋訪問した仮設住宅や児童施設が大半だったので、顔なじみの被災者や子供たちも多く、メンバーはリラックスして交歓することができました。公演は女川町の仮設住宅4か所・女川と仙台の小学校5校・保育所3か所・児童館3か所で行い、うち3か所では振興協会チームと共演しました。昔遊び・マジック・紙芝居・大道芸のほか、銭太鼓や歌のメンバーが新しく参加。協会チームにはプロの女性歌手もいて、被災者や子供たちは大喜びでした。最終日には石巻市長と仙台の生涯学習施設「豊齢学園」を訪問しました。(広報・南形徹) (関連記事2~7面)



ボランティアの輪をひろげよう

60号の内容

### 東北座談会「明るくなった子供の表情」 6・7面

ボランティア最前線 工作塾 8面	寄稿「シルバーの世代性」 9面
連載「花実の森」③ UD教室 10面	ボランティアの心 谷口文子 11面
カレッジで水のシンポジウム 12面	カラー・しあわせの村祭り 14面

# 「また来てくれて、ありがとう」

▼7月11日、名取が丘児童館で

## 支援チーム奮闘

第3次チームの公演は7月8日の女川町清水仮設でスタート。チンドン屋風の呼び込みをやって40人を集めました。昨秋も訪れているので「また会えたね」と、再会を喜んでくれる被災者もいました。草津節のメロディーに乗ってオープニング体操。南京玉すだれ、昔遊び（お手玉・あやとり・折り紙コマ）と続き、オカリナの伴奏で「花火」「上を向いて歩こう」「七夕さま」を一緒に歌いました。

コミカルな1人芝居「白波五人男」で会場をわかせたあと、銭太鼓チームが登場。持参した太鼓で皆さんにソーラン節を体験してもらいました。花が飛び出すマジックで驚かせ、最後は民謡タイム。デカンショ節・斉太郎節と続き、全員で炭坑節を歌って踊って大いに盛り上がりました。庭では〈わ〉の2人も参加してペタンクの親善試合をしました。午後は石巻バイパス東と西の仮設住宅です。銭太鼓の体験と民謡や「北国の春」をいっしょに歌って大いに沸きました。



たち78人の相手はちょっと大変でした。11日は雨模様。7時過ぎには宿舍を出発し、増田保育所へ（60人）。子供たち全員で歌ってくれた〈園歌〉がすばらしい。

昼休みを利用して、大津波ですべての住宅が消えてしまった〈ゆりあげ地区〉を見学しました。昨秋はなかった雑草が生い茂っており、この日初めて訪れたメンバーは言葉もないようでした。

## ドレミちゃんとの共演

11日午後（ゆりが丘児童センター・65人）と12日（東六郷小・40人、六郷児童館・50人）は協会チームとの合同公演です。体操のお姉さんとピエロ風の衣装でドレミちゃん登場。風船アートが始まると、子供たちは大歓声です。ヅカ出身の花城アリアさんは透き通るような声で「ドレミの歌」「アイアイアイ」などを披露。会場を魅了しました。昔遊びでは〈わ〉のチームと一緒に子供たちと遊びました。

13日は早朝、石巻市の亀山紘市長を表敬訪問。復興の現状などを聞きました。豊齢学園では大歓迎を受けましたが、ゆっくり懇談する時間がなく「連携して被災地復興活動をやろう」と大筋での合意にとどまりました。今後、双方で具体策を検討します。

【3次チーム】西田圭一（団長・生9）芦田義和（リーダー・生15）海野龍英（幹事・食16）内田たみ子（福10）増金スミ子（福11）水嶋和信（生12・写真）波多野武郎（食16）古後健一（健18）三浦捷治（国10）三浦良子（国9）阿部和子（福11）林弥生（国13）山田保子（音13）大橋洋子（音16）筒井ちなみ（音17）安田夫市（健17）大和川明美（18）▽留守部隊＝大澤貞男（生13）南形徹（生14）▽特別参加＝浦崎佳世子（竹の台小）【復興協会チーム】花城アリア（歌手）ドレミちゃん（香川彩子）梅田ちえみ（体操）田中浩子、福田孝夫・佃孝司（協会）



9日は女川第二小へ。第一、第四小との合同ですが会場には40人。嵐の曲に乗って、新聞をちぎってあばれる“新聞ダンス”に子供たちは大喜び。南京玉すだれに眼をみはり、昔遊びではチーム全員が子供たちの輪に入って遊びます。人気はブンブンゴマ。「回った、回った」と大はしゃぎ。銭太鼓には10人がチャレンジ。華やかなマジックのあとは、ボール・あめ玉・色紙などをプレゼントしてお開きです。

午後は東浜小（28人）。ここの児童とは昨秋と冬（ルミナリエ招待）の2回会っており、「また来てくれたの？」と嬉しそうです。45分しか持ち時間がなく、スタッフは大慌てでプログラムを進めました。

10日午前は名取が丘保育所（60人）。紙芝居「おおきなかぶ」に拍手・拍手。「カエルの合唱」や「七夕さま」など子供たちは歌が大好きです。午後は名取が丘児童センター。1時間しかなく、子供

# “新聞ダンス”に熱中



㊦女川第二小で新聞ダンス㊧協会  
チームの花城アリアさんとピエロ  
のドレミちゃん㊨女川の仮設で



中段=㊩清水仮設で民謡踊り ㊪六郷児童館で  
下段=㊫町が消えた名取・ゆりあげ地区に雑草が  
㊬増田保育所で㊭名取が丘児童センターで  
【写真はいずれも水嶋和信・古後健一撮影】

# 東北支援で思ったこと

## 3次チームの証言

3次チームの皆さんに「東北支援で思ったこと・印象に残ったことをひと言ずつ語ってもらいました。

●西田圭一 東北支援の輪がさらに広がった。振興協会・カレッジと共同歩調をとって派遣計画をたて、仮設や小学校での公演活動だけでなく、石巻市長や豊齢学園との懇談も実現した。今後の活動に展望がもてた。

●古後健一 「ひさしぶり」。嬉しそうに声をかけてくれたお年より。表情が明るくなった子どもたち。去年持参したメッセージを今も貼ってくれている仮設集会所や児童館。「ずっと忘れないよ」という声援を送り続けることが大切なのですね。

●大橋洋子 今回、震災後1年余り過ぎた現地の皆さんと昔遊びで交流しました。



大人は童心に、子供は無邪気に笑顔で遊ぶ姿に私自身元気を貰えて、もう暫く遊びたかったなあ〜。(十年若ければ現地の復興支援スタッフで残りたい気持ち)

●山田保子 今回仲間に加えさせていただき、2度目の仙台訪問です。仮設の皆さんが花を咲かせ、野菜を作られているのを見て、少しは落ち着かれたのかなと思いました。自然の脅威を感じるとともに、花や緑に自然のやさしさを感じます。

●海野龍英 なとりが丘児童センターで、司会を終えた時、一年生の男の子が近寄って来て、合掌した姿で「ありがとう」と言ってくれた。その小さな手を包んで言葉を返そうとしたが、声が震えて返せなかった。

●内田たみ子 仮設住宅の雪架を見て、厳しい冬の暮らしを想った。3回目の参加だが、一時でも被災者や子供たちに安らぎと生きる力を、と唄い語り遊び働きかけた。個人ではささやかな活動だが、チームでは大きくできることを実感した。

●林弥生 休耕の畑がたくさんありましたが、一日も早く再生されることを願っています。昔あそびでの子供たちのかわいらしい笑顔。これからの日本を担う子供たち。頼もしく思いました。

●波多野武郎 2度目の参加だ。仮設集会所で何人かは「覚えているよ」と手を取り、一緒に唄い踊ってくれた。明るくて元気そうなのに安堵した。銭太鼓の体験やマジックでは、子どもたちの目が輝いていた。ハイタッチで迎える手にも力強さを感じた。

●大和川明美 閉上中学校の前に立った時、「生徒の声がない廃墟のような校舎・雑草だらけのグラウンド」に一瞬凍りつきました。生徒の慰霊碑の前に新しい花が添

えてありました。その日は月命日の11日でした。

●芦田義和 第3次支援隊は公募したため、うまく公演できるか一抹の不安があった。しかし、素晴らしいメンバーに恵まれて、多彩な演技をたくさんの子供たちや仮設の住民に披露でき、喜んでもらえて大成功だった。

●浦崎佳世子 (竹の台小) 石巻には地震・津波の傷跡がそのままの地域があり、そこでの生活は想像もできないほど大変だということを感じた。その中で人々が寄り添い、助け合い「今を生きている」ことを知り、私達はその現実を心にかけて、できる事を少しでも続けていかねば、と思った。

●水嶋和信 2回目は広報として参加。「また来てくれて嬉しい。おぼえているよ」「銭太鼓や紙トンボ、風船チャンバラ、マジックが面白かった。教えてくれてありがとう」。仮設住宅・小学校・児童センターで感想が聞け、疲れが吹っ飛びました。

●三浦捷治 最初に気付いたのは仮設の皆さんの表情が明るかったこと。保育所・学校・児童館も同様でした。1年半の時間がそうさせたのだろうか？ 住民・子供たちに私たちの芸が受け入れられたのなら本当にうれしい。

●三浦良子 復興に向け頑張っておられる方々にお逢いすることができ、子ども達も明るく迎えてくれ、マジックも喜んでくれたこと、本当によかった。もう少しゆとりが欲しかったが。

●安田夫市 仮設住宅では私たちの拙い芸でも喜んでくれた。保育所・小学校では子供たちが、昔遊びやマジックなどを楽しんでくれ、「また来てね」と言われて心がじんとききました。機会があったらまた行きたいです。

●筒井ちなみ 被災地を訪ねたいという、強い願いが叶った。その上、自分のやっている銭太鼓を披露。真剣な顔で、銭太鼓の体験をしてくれた子供たち、民謡で交流し合った仮設の方々。短い時間だったが、楽しかった。

●阿部和子 清水仮設住宅は棟と棟の間の路地がとて狭く、家の中が丸見え。そんな中、グリーンカーテンの贈り物はとても喜ばれた。公演も短い時間でしたが楽しんでいただき、明日に繋がればよいな、と思いました。

●増金スミ子 「あつ玉すだれの人。また来てくれたの」「覚えてくれていたの？お元気でしたか。私もお逢いしたかったですよ」。仮設住宅を回った呼び込みの一コマですが、皆さんと握手やらハグをしながら、10か月ぶりの再会を喜びあいました。

【写真=石巻市の日和山に勢揃いした第3次チーム】

# 東北支援報告会 11月20日に

グループ〈わ〉は11月20日(火)のジョイラックデーに「第3次東北支援チーム報告会」をカレッジホールで開催します。K S Cの皆さまから寄せられた支援に感謝の気持ちを込めて、「東北大震災のその後」をお伝えします。

第3次では、現役・初参加を含め17人のメンバーが女川・石巻・仙台の仮設住宅・小学校・児童館を訪問し、交流してきました。報告会ではK S Cのメンバーのほか、現地で共演した振興協会チームの女性歌手らが体験発表をします。特別ゲストとして、連携先である女川町復興支援センターから武石久美子氏、氏家錦氏を招き、現地の復興状況を話してもらいます。第3次チームの記録ビデオも同時に上映。ロビーでは写真

パネルを展示するほか、応援物資を販売し、サポート募金も呼びかけます。

▼11月20日(火) 10時～12時30分。カレッジホールで。

▼特別ゲスト 女川町復興支援センター 武石久美子氏、 仙台市立商高 氏家錦氏

▼体験発表 マジック・三浦良子(国際9) 銭太鼓・阿部和子(福祉11) 昔遊び・内田たみ子(福祉10) 民謡・波多野武郎(食文16) 童謡・山田保子(音文13) 交流・古後健一(健福18) 進行・海野龍英(食16)、芦田義和(生環15) 振興協会・花城アリア(歌手)

▼記録ビデオ『震災ボランティア奮闘』第3部  
(以上の問い合わせは東北支援チームまで)



## 仮設にグリーンカーテン贈呈

遮熱性にすぐれ真夏の日よけに最適というポリエステル製のガーデンカーテン100組(200枚)が、福祉振興協会を通じて〈わ〉に託され、7月8日に現地で清水・新田の仮設住宅住民にプレゼントされました。石川県の合繊メーカー山越が製造、神戸の販売会社から振興協会に打診があったものです。仮設住宅前で第3次チームの西田理事長から目録を受け取った自治会長は「ありがとうございます。仮設は暑いので、いいお中元をいただきました」と嬉しそうでした(写真)。

## 昔遊びの3人、東北へ

昔遊び研究会の3人が8月31日～9月3日の4日間、神戸市社協主催のボランティアバスで東北被災地を訪問。名取市ゆりあげ地区の仮設住宅で、子供たちやお年寄りや遊んだり、語り合ったりして交流してきました。メンバーは飯川泰郎(国12) 増金スミ子(福11) 大橋洋子(音16)さん。今回の活動は甲南

大などの学生50人が主体で、子供たちとはミニサッカー・鬼ごっこ・射的・フリスビーなどを楽しみ、お年寄りとはふれあい喫茶で話し相手をしてきました。飯川さんたちも動物風船や南京玉すだれを披露しましたが、「若い学生さんたちと一緒に活動できて楽しかった」と話していました。

## 県から助成金20万円

7月に申請していた「ひょうご安全の日推進事業助成金」が認められ、20万8000円が支給されることになりました。11月の東北支援報告会の費用に充当します。一方、第4次東北派遣チームの資金にするため「しみん基金・こうべ」にも助成を申請しています。審査結果は10月中旬に決まる予定です。

## ●学園祭で募金呼びかけ

グループ〈わ〉と現役のボランティアセンター、クラブ協議会は学園祭(10月13日)当日、共同で東日本大震災の募金を呼びかけます。入学式に続いて2回目で、お金はあしなが育英会や東北支援活動に使わせていただきます。ご協力をお願いします。

## サポート募金賛同者

7月1日～ 9月30日分。敬称略。

林田周治5千円、小林精一2千円、募金箱1004円、細野恵久3千円、須磨区会1万円、林和男1500円、神澤のり子1万円、江崎政男1500円、小谷国子千円、堺沢2万円、前田仁子1万円、東本孝次1060円、上月清2千円、区・部会懇親会1600円、増金スミ子1万円、未来館有志6千円=計8万5664円。

# 「子供たちが明るくなったね」

7日間にわたって被災地を訪ね、仮設の皆さんや子供たちに寄り添って“心のケア”活動をしてきた第3次支援チーム。現地で何を感じ、どんな印象もったのか。その体験を今後の活動にどう生かしていったらいいのか。参加者6人に話し合ってもらいました。（写真=7月25日、支援活動の感想を語る皆さん）

## 座談会

### 【出席者】

三浦捷治 内田たみ子  
波多野武郎 海野龍英  
林弥生 増金スミ子  
阿部和子 司会 芦田義和  
(まとめ・南形徹)



## また会えて…ありがとう

—東北支援、お疲れさまでした。初参加の印象から聞かせてください。

三浦 女川町や名取市閑上（ゆりあげ）地区など被災地は見渡す限りガレキの山。逃げる余地はなかったのかなあ、と胸が詰まって言葉にならなかった。公演の間は大人も子供も笑顔で楽しんでくれ、やりがいがあった。

阿部 女川で横倒しになったままのビルを見てびっくりした。閑上地区では、津波にさらわれ何も無い荒地に雑草が生い茂っていた。1年経って少しずつ風化しているんだなあ、と。「千の風になって…」の歌を思い出してしまいました。

林 畑がたくさんあるのに作物がない。小さなガレキが埋まっていて取り除かないと使えないのだと聞いた。大自然は生きている、とつくづく感じた。チームの皆さんがとても積極的で、やる気満々。いい公演ができました。

—2、3回目の方の感想は。

増金 「あっ、玉すだれのおばちゃん。また来てくれたの？」と声がかかり、抱き合って再会を喜びあった。仮設住宅ではどの家にも花が一杯植えてあって、感激しました。少しは皆さんの心も落ち着いてきたのかな、と感じた。

内田 昨秋、お目にかかった時は明るかったお婆さんが、今回は「まあまあ、元気でおります」と、なんだか表情が寂しそうでした。弱られたのかな。

波多野 私の三味線を見て、「覚えてますよ」と言われ嬉しかったです。全体的に皆さんの表情、特に子供たちは明るくなっているように思った。

—公演はスムーズにうまくいきましたか。

内田 持ち時間が短すぎて、子供たちと充分遊べなかったのが残念。ぶんぶんゴマに色を塗ってもらうこともできなかった。（一同うなづく）

阿部 銭太鼓も、もう少し体験してもらう時間があればよかったなあ、と思いました。

三浦 やさしいマジックを子供たちと一緒にやりたかったが、見せるだけになってしまった。時間枠が決まっているなら、日によってマジックを休むとか、昔遊びの種類を減らすとか、工夫が必要だったのではないかな。

増金 逆に私は1人だけのパフォーマンスなので、時間ももったいない気がした。多人数でやる南京玉すだれも考えないと。

## 事前の楽器練習よかった

海野 楽器や歌は、10回近くも事前練習をやった甲斐があったようですね。音合わせがスムーズにきました。

波多野 そうですね。三味線とハーモニカ、歌、民謡、銭太鼓すべてに練習の成果がでていました。

内田 メンバーには昔遊びを知らない人もいたが、皆が事前準備に協力してくれてありがたかった。

林 どの会場でも、子供たちが楽しそうに銭太鼓を振って喜んでくれた。すぐ覚えてしまうのですねえ。何よりの収穫でした。

阿部 そう、元気な笑顔を見られただけで行った甲斐がありましたね。（一同うなづく）

海野 清水の仮設では、ペタンクの交流試合をやった。道具は年末に〈わ〉から贈ったものです。15人が集まってくれ、楽しい時間が過ごせました。

## ドレミちゃんとの共演は

――振興協会チームとの共演は2回目。今回は歌手と風船アートの女性、体操のインストラクターが同行しましたが。

海野 ピエロ姿のドレミちゃん（風船アート）は子供たちに大もてだった。花城アリアもすばらしい声だったが、子供たち相手には選曲を少し考えてほしかったですね。〈わ〉のプログラムと分けてやった方がよかったかもしれない。

三浦 ラジオ体操は余分だった気がする。やるならもっとキビキビしなくちゃ。オープニングには面白くなかったし、子供たちの反応も今いちだった。

内田 協会チームとの共演は、面白い試みだと思うが、時間配分とか、プログラムについては工夫が必要でしょうね。（一同うなずく）



――6泊7日はかなり強行軍でしたね。

海野 同じホテルに連泊できたのはよかったが、男性は6人部屋、女性はツイン。大浴場はまだ閉鎖中で、入浴は車で浴場まで行かなければならず、その点は不便でした。

増金 ホテルの食事は昨年よりよくなっていた。お昼の弁当もコンビニから注文弁当に格上げになり、日替わりメニューになってよかった。

――石巻市長との面談や仙台の豊齢学園訪問はどうでしたか。

海野 どちらも時間が少なく、突っ込んだ話ができなかった。豊齢学園では大歓迎してくれただけに残念だった。連携して復興活動をしようとの共通認識はできたので、今後具体策を詰めたい。

三浦 石巻市長からはごみ処理に2年以上はかかる、など現状を聞くことができた。自治体側からの話は参考になった。

――今後の支援活動について。

波多野 昨年は見せることが主体だったが、今回は〈一緒に遊び、体験してもらう〉プログラムにし

た。このやり方を続けてほしい。女川、石巻などとのパイプをもっと太くすることも必要ですね。

阿部 体験といっても、先方のニーズもあるし、その辺をどうするか。シルバーである私たちが出来ることは何か。具体的つかむのは大変ですね。

## 体験重視のプログラムに

三浦 あわただしい公演で、子供たちは満足してくれたのかな。体験時間を多くとるようにすべきだったと思う。

増金 私もそう思います。じっくり子供たちと遊べるようなプログラムにしてほしい。

内田 メンバー公募はよかった。多様な集まりだったが、事前練習などみんな意欲満々で、チームワークはすばらしかった。

海野 復興センターや自治会に「どんな支援を望まれますか」と聞いても、はっきりした答えが返ってこない。豊齢学園と連携するにもその点がポイントになりますね。

――オールしあわせの村・オールKSCという観点から、振興協会とは今後も協力して支援活動をやっていると思っています。皆さんもぜひサポートをお願いします。本日はありがとうございました。

（写真一名取が丘児童館で銭太鼓を体験する子供たち）

## 協会チームの感想は

協会チームはどういう印象をもったのか、リーダーの佃孝司氏に聞いてみた。

会場の子供たちの表情が昨年よりうんと明るかったので安心した。共演でプログラムが多彩になってよかったと思う。花城アリア（歌手）も、ドレミちゃん（風船アート）も「KSCの皆さんと一緒にやれて楽しかった。昔遊びもい経験させてもらいました」と言っていた。プログラムで〈わ〉との時間配分は特に気にならなかった。短いなら短いなりに喜んでもらえたと思うし、子供たちも退屈しなかったのではないかな。

協会単独でやった荒井仮設住宅（仙台市）では、ヅカ出身の花城さんが真っ赤な舞台衣装でドレスアップ。会場がぱっと明るくなった。「すみれの花咲くころ」「慕情」「夜来香」などプロの美声をたっぷり披露、会場を魅了した。最後の「ふるさと」は、おじさんも、おばさんも涙をぼろぼろ流しながら一緒に歌ってくれた。私たちスタッフも、もらい泣きでしたね。

# 車やオブジェ…熱気の工作塾

## ボランティア最前線



小枝やつるを使ってオブジェづくり  
スタッフも手伝ってウチワづくり  
お父さんも汗かく、糸ノコで車作り

「車つくった」「ウチワきれいでしょ」——〈夏休み工作塾〉が8月19日、研修館ホールで開かれ300人を超す親子連れの熱気と歓声で終日にぎわいました。大人気のイベントなので6サークルと本部からスタッフ80人が出て、子供たちの世話をしたり、アドバイスしたり。汗だくの一日を追いました。

8時半。協会側の5人（受付担当）とスタッフが勢ぞろい。作業テーブルを並べ、用意した300人分の工作材料や作業をチェックします。混乱を避けるため、今年から入場料300円をとって午前・午後それぞれ150人ずつに人数制限。子供たちは木工・草木染・織り染め・ネイチャークラフト・絵手紙・エコ工作など8つのメニューから3つを選ぶ方式に変更しました。

9時過ぎには子供たちや付添いの父母が続々と来場。10時のオープンと同時にお目当てのブースに走ります。一番人気はやはり木工。車や登り人形、モビールの材料が用意され、糸ノコを使ってゴリゴリ切るのが楽しそう。「ちょっと貸してみ」。お父さんも夢中です。見本の形に切って、色を塗って「ハイ、車のできあがり！」。子供の笑顔に、手伝ったスタッフも満足そうです。

織りぞめはウチワ作り。和紙に顔料で模様をつけ、ウチワの骨に張って完成です。「色付けはこうしてね」。スタッフがやさしく教えます。草木染めも玉ねぎの皮を顔料に、ハンカチに円や四角を染めぬぎます。ド

ングリや木片、小枝を使ったネイチャークラフトのブースも満員です。「何をつろうか」。あれこれ考え、材料を組み合わせ、自分流に仕上げるのが魅力のようです。

一方、昆虫採集は炎天下、ピオトープ一帯で行われ親子連れ60人が参加しました。お手伝いはピオトープの5人。午前中は捕虫網を持ってバッタ・トンボ・チョウ・セミなどを追いかけ、午後は研修館に戻って講師の指導で捕ってきた”獲物”を標本にしました。小3の男の子は「あんまり捕れなかった」と悔しそうでしたが、全体では30種ほどの昆虫が捕れたそうです。

午後3時。「ありがとう。面白かったです」。各ブースとも大きな混乱はなく、手作りの作品を持ち帰る子供たちの笑顔で終了しました。この催しには、木工18人・昔遊び19人・草木染9人・絵手紙4人・エコ工作3人・竹細工2人・つる工作2人のほか、わ本部を含め82人がサポート役として参加しました。

「整理券方式にして例年よりスムーズに流れてよかった。1か月もかけて準備してくれた各サークルに感謝します。もっと子供たち自身にやらせるようにすれば良かったかな」と担当の岸本理事は振り返っていました。（広報・南形徹）=16面にも関連写真



# 世代性高いほど幸福感強い

中高年の意識調査を終えて

田淵恵 (関学大学院)

社会還元センターグループ「わ」の皆様には、2010年・2011年の2度に渡り、質問紙調査「中高年者と若年世代のかかわりに関する調査」にご協力いただきました。質問項目が多かったにも関わらず、2010年度は合計676名、2011年度は合計623名と、非常に多くの方々にご協力いただきました。調査最後の感想欄では、調査や研究に対する励ましのお言葉までいただき、皆様のあたたかさに触れ感動いたしました。貴重なお時間を使って回答してただけましたことに、研究班一同心からお礼を申し上げます。

わたくしの研究テーマは、「中高年者の世代性」です。「世代性」とは、「若い世代の人たちを支え導いていくことへの関心」であり、中高年者にとって大切なことの発達とされております。これまでの研究では、「世代性」が高い中高年者は、若い世代へのボランティア活動や地域貢献活動などにに関わり、幸福感が高いことが報告されてきました。調査の結果、グループ「わ」の皆様は、「世代性」に関わる幅広い社会貢献活動に積極的に参加されていることが分かりました。しかし同時に、若い世代の人たちから感謝の言葉、態度が返ってこなければ、「世代性」が低下して活動が続かず、幸福感にもつながらないことが分かりま

した。

このことは、感想欄での皆様の言葉からも伝わってまいりました。若い世代の人たちとの関わりを持っ

ても、思っていた反応が得られなかったために、悪い印象を持ってしまったという方や、若い世代の人たちに何かしてあげたい、自分たちの経験を伝えたいと思っている一方、若い世代の人たちからあまり受け入れられていないと感じるため、活動に積極的に取り組めないという方もいらっしゃいました。

また逆に、思いがけず「ありがとう」の言葉や笑顔を若い人たちからもらったため、若い人たちと関わるボランティア活動に興味を持ち、続けていらっしゃるという方もいらっしゃいました。

相手の態度によって行動が続かなかったり、幸福感につながらなかつたり、ということは、世代間の関係に関わらず、人と人が関わるどんな行動にも当てはまることかもしれません。些細なことであっても、相手の行動に対して「ありがとう」という態度を示すことが、お互いのことの発達と幸福感につながるということでしょうか。「ありがとう」を、世代を超えて伝え残していくことこそ、お互いの世代の幸福感につながる大切なことだと、調査を終えた今、感じております。



〈わ〉の会員を対象にした調査を担当された関西学院大学院文学研究科・田淵恵さんからの寄稿です。

## エコ工作にチャレンジ 未来館

環境未来館（西区）で8月26日、「夏休み自由研究お助け隊」が開催され、宿題を仕上げようという子供たち62人が父母らと訪れ大盛況でした。この催しは、身近にある木片やペットボトル、牛乳パック、布きれなどを再利用し、車やバッグ、ウクレレ、写真立てなどを作り、この作業を通して環境問題を考えようというもので、各サークルと未来館のスタッフ約40人が子供たちのお手伝いしました。

8つのブースには、10時のオープンと同時に子供たちが駆けつけ、お父さんやお母さん一緒になって作品作りに汗を流していました。中には、4つも5つもブースを回ってチャレンジ。たくさんの作品を抱えて帰る子もいました。

この日、①木工工作（担当・木工クラブ）②エコバッグ（銀の匙）③エコ工作（カーネーション）④



布ぞうり（生環16期）の4ブースは各グループが協力。⑤おもちゃ作り⑥ピオトープ観察⑦昆虫採集⑧草木染の4ブースは未来館が担当しました。

（環境未来館）＝写真は布ぞうり作りにチャレンジする男の子＝木田育義撮影



## 育ちゆく 花実の森 ③

### 秋の里山楽しもうよ

花実（はなみ）の森の楽しみのひとつに“里山の秋の散策”があります。常緑樹の繁茂を制限し落葉広葉樹を残してきた里山の姿は、春の“芽吹き”の緑から、夏の“成長期”の深緑を経て秋の“紅葉”へと移っていきます。きびしかったこの夏の陽射しも、里山の中ではいつも快適な木陰の中で過ごすことができました。その空間では、この夏もさぞ多様な生きものたちがその恩恵を授かったに違いありません。地中の多くの生きもの、地表の草花、木々の間を飛び交う蝶や小鳥たちも敏感に感じ取っていたことでしょう。

この里山の木々の営みも、秋を迎え光合成の働きを担ってきた葉も、気温の低下と共に衰えはじめ、紅葉から落葉へと進みます。この間、

赤や黄に染まった葉の間には柿・栗・どんぐりなどの実を付け、里山の恵みとして我々におすそわけをしてくれます。



きびしかった夏の陽射しから、やわらかな陽射しに変わった里山に踏み込んで、秋の景観を五感で楽しんでみてください。拾ったどんぐりでお気に入りのかわいいペンダントや置き物が作れますよ。

（花実の森プロジェクト

菅田忠志＝生11・須磨区会）

写真＝8月7日、花実の森でUD学習会が開かれた



### “花実の森”でUD教室

緑の風が涼しい花実の森で8月7日、しあわせの村主催の『夏休み子どもUD教室』が開かれ、3年生～6年生の子どもたち54人が、里山体験学習をしました。講師は「花実の森プロジェクト」メンバー。6班に分かれ、木々を観察しながら急な斜面の階段やロープ道を散策。小枝や木の葉を集めて持ち帰り、これを使って箱庭づくり、木の名札づくりを楽しみました。できあがった箱庭はホテル館ロビーに展示され、来客の家族連れが、興味深そうに見ていました。この日の学習は、花実プロジェクトがこれから始める小学校3年生を対象とし

た『自然環境体験学習』のノウハウ蓄積にも役立つ内容となりました。（花実の森プロジェクト 菅田忠志）＝写真は本館ロビーに展示された子供の箱庭

### 『地域交流と文化の祭典』

#### 10月20日に開催

シルバー世代と子供たちがパフォーマンスを楽しむ第3回『地域交流と文化の祭典』（文化部会主催）が10月20日（土）（10:00～15:30）、シルバーカレッジで開催されます。出演は文化部会12グループ、地域の児童は昨年より2つ増え、7グループ。勇壮な和太鼓の演奏（北区花山グループ）でオープニング。キッズダンスや器楽、三味線グループが次々と熱い演奏を繰り広げます。〈わ〉のサークルからも銭太鼓グループなどが出演。子供たちとのコラボ演奏を披露します。

ロビーでは同窓会と絵手紙グループが作品を展示。軽食（サンドウィッチ、パン）の販売もします。地域の友人、知人を誘って、ぜひ、お越しください。問い合わせは文化部会・小林精一（078-741-6007）まで。

## ボランティアの心

### 里山に魅せられて

人の手が入らなくなり放置された里山がいかにも多いことか。外から見れば木々が生い茂り、いかにも緑が豊かに見える林も、内に入れば光不足で薄暗く、植物種も少ない貧相な林です。そんな里山を何とかしたい。そのような思いから、兵庫県が実施する「森林ボランティア講座」を受講し、終了証の代わりにヘルメットを頂きました。そして2～3回かぶって里山整備に参加しましたが、私の思いと少し違うことなどから、その後は使うこともなく、家の隅でほったらかしの状態でした。

平成19年の春、生環13期生の有志で行う里山整備「かがやきの森」に誘って頂きました。みんなで意見を出し合いながら進めると聞き、理想的な里山整備と思ったのです。それでも悩みはありました。光を林床まで届かすためには、大きく育った木を間伐しなくてはなりません。「本当に必要なの?」「他に方法はないの?」木を切るしか方法はないと判っているのですが、すんなりと受け入れることはなかなか出来ず、切るたびに胸が痛



みました。

しかし、整備をして1年も過ぎると小さな実生の幼木が顔を出し始めました。今まで落ち葉

の下に埋もれていたものが、光を与えられ、落ち葉を取り除かれたことで、一気に地表に出てきたのです。「わぁ、出てきてくれたの。うれしい。」その幼木がとても愛おしく、里山が再生しつつあることを実感することができました。整備を続けてきて良かった。いろいろ悩みもあったけれども、吹っ切れてしまいました。

今ではヘルメットはキズだらけです。毎回、整備作業を終えると身体はくたくたですが、疲れは残りません。きっと自然から元気をもらっているからでしょう。これからもあの幼木たちを見守りたい。長い間地中にあり、地上に出るのを今か今かと待っている見知らぬ種たちに、早く光を与えたい。私の切なる思いです。(写真は7月23日、里山で作業中の谷口さん) 谷口文子(生環13期)

## 障害児は〈ほめよう〉

### 秋の学習支援者の集い

今年度2回目の「学習支援者の集い」が9月7日、50人が参加してカレッジ学習室で開かれました。加藤委員長が支援活動の現状を報告したあと、市教委特別支援課の崎川孝一さんが特別支援ボランティアの基本的な留意点について講演。①知的障害のある子②肢体不自由な子③自閉症の子——と障害児をタイプ別に分け、その特徴、対応の仕方などをくわしく説明し、全体として「ほめてあげる」をモットーに接してほしい、と強調しました。さらに、崎川さんは自分の体験を通して「障害のある子は、教室移動・給食・靴の履き替えなど、〈自分はうまくできない〉と思っているので、〈ほめてあげる〉ことで活動する意欲が育ち、力も伸びる」と熱っぽく語りました。

このあと、市教委の丸山明夫・有原暢彦さんも加わり、アンケートで寄せられた特別支援への要望・課題・悩みについて参加者全員でフリートーク。ある女性は「障害児のタイプ別説明が具体的でわかりやすく勉強になった」と話していました。

## 西区会が舞鶴旅行

西区会は9月3日、63人が参加しバス2台で舞鶴方面へ日帰り旅行を楽しみました。舞鶴引揚記念館では「こだまする 引揚船の 海鳴りに 天地もさげよ 今君帰る」という引揚の母と呼ばれた田端ハナさんの詩を読んで、ジーンとききました。記念公園からのぞむ舞鶴湾のパノラマ風景、五老スカイタワーから見晴らす海と山の素晴らしさに感嘆しました。帰途、とれとれセンターで新鮮な地元のお土産を買って全員無事に帰ってきました。(西区会・堺寿代)

## 北区会はグラウンドゴルフ

北区会は9月26日、しあわせの村球技場で26人が参加して親睦グラウンドゴルフ大会を開催しました。優勝は加藤邦彦、2位は松本章、3位は仲多賀夫さんでした。とまり賞は7本。大会後アミーゴで表彰式と昼食会。炎天での試合を振り返りながら懇談しました。

## 〈わ〉主催のペタンク大会も

グループ〈わ〉主催の第2回親睦ペタンク大会が9月29日、村の球技場で行われ同好会のメンバーら24チーム・48人が参加しました。優勝は大石勇・長島たき子組、2位は伊須原重明・鷹羽昭組、3位は長岡秀和・久保正志組と上野堯・小松隆子組でした。台風17号接近で午後から雨模様となったため、3位決定戦と交流戦の一部が中止となりました。

## カレッジだより



### 水のシンポ in KSC

11月16日に開催

〈命の源”水”を考える〉をテーマに11月16日(金) (10時~15時)、カレッジホールで「水シンポジウム in KSC」が開催されます。世界的に水不足が大きな課題になっており、カレッジ学生にも人と水の関係を考えてもらおう、というのが趣旨です。生環コースの合同授業ですが、卒業生や市民の参加も歓迎します。講演テーマと発表者は次の方々です。

▼基調講演=「琵琶湖の水質の長期的変化と流域環境の変化」(大久保卓也・琵琶湖環境科学センター部門長) ▼トーク=水とくらし~その歴史的発展(松下眞・神戸市水道局中部センター長) ▽水と健康(西村典芳・神戸夙川学院大教授) ▽きれいな水と豊かな水(島本信夫・豊かな森川海を育てる会) ▽湧水を次世代に(生環15期・うまい水探訪グループ) ▽伊川を美しい川に(豊田光世・兵庫県立大講師) ▽雨と災害(神野忠広・国交省六甲砂防事務所長) ▽水の再生と活用(永木郁郎・神戸市建設局東水環境センター長) =司会は鎌田靖子コーディネーター▼1Fロビーでは水に関する各種のパネル展示があり、食堂では交流会も開かれます。

### マスコミ取材相次ぐ

#### ●韓国KBSテレビ

「高齢化社会を生きる」のテーマで、韓国KBCテレビ(教育系)の李



珍一さんら2人が7月3日、しあわせの村とカレッジを取材に訪れ、村の各施設、授業風景、クラブの練習ぶりなどを収録。グループ〈わ〉事務局では「どんなボランティア活動をやっているのか。規模や回数ほどの程度か」など、理事長らに熱心に質問していました(写真)。高齢者が第2の人生をどう生きるか、は韓国でも大きな関心と呼んでおり、この面で先進的な役割を果たしているシルバーカレッジの実態を紹介するのが趣旨のようです。中国、台湾などからも毎年のように取材班が来校しています。

●キッスFM 元気な老人パワーを紹介—キッス

FM(神戸)の人気番組「バンディズ ゴーイングオン」(日曜夜9時)のパーソナリティ・アンシーさんら2人が7月20日、カレッジを見学。事務局や〈わ〉の理事の説明を聞きながら授業風景、クラブ練習をカメラに収めていました。21日には〈わ〉の広報担当(南形)がインタビューに応じ、カレッジの概要を説明しました。映像は22日からYouTubeで流れ、インタビューは8月5日にアンシーさんのコーナーで放送されました。

このほか、7月3日には中国・湖北民族学院院長・戴小明さんがカレッジを訪れ見学しています。

### 〈仲間と楽しむ〉学園祭

〈学び 楽しみ 仲間と共に〉をテーマに、第18回学園祭が10月13日(土)に開かれます。ステージでは合唱・ダンス・マジックなど23グループが日頃の練習の成果を披露。中庭や学習室では27グループが模擬店を出して作品や雑貨、うどん、カレーなどを販売。チャリティーバザーも開かれます。ロビーでは絵画・陶芸・写真・書などが展示されます。グループ〈わ〉もカレー店とベトナム料理店をオープンします。東北支援募金も呼びかけます。

### 続々と秋の発表会

●男声合唱団 10月26日(金)に神戸文化ホール(中ホール)で第4回演奏会を開催。「雨」「なごり雪」「ヴォルガの舟歌」など十数曲を披露します。入場整理券はFAX(078-581-9354)かメール(kita3\_aki@ybb.ne.jp)で北村代表までお申込みください。

●楽遊クラブ 11月17日(土)(13時~16時)、しあわせの村研修館ホールで第7回「銭太鼓百人打ち」の演奏会を開催します。児童館の子どもたち・知的障害者の皆さん・加古川や亀岡の銭太鼓仲間が一堂に集まって、民謡から懐メロ、演歌、童謡、唱歌、アニメソングまで全26曲を競演します。問い合わせは重松代表(078-811-5814)まで。

●マジッククラブ 11月24日(土)13時半から兵庫県民会館ホール(中央区)で第10回マジックの祭典を開催します。OBと現役二十数組が妙技を披露します。問い合わせは森田代表(821-76249)へ。

●コーラス・タルミ 25年1月19日、舞子ピラ・あじさいホール(垂水区)で10周年発表会を開きます(開演14時)。ホームソングのメドレーを中心に「アムール河の波」「初心のうた」など十数曲を披露。問い合わせは芝野公男(781-8612)、裏地彦允(786-0623)まで。

## WA からのお知らせ



### OB役員が懇親会

グループ〈わ〉のOB役員懇親会が7月22日正午から県庁前のパレス神戸で開かれ28人が参加。昼食を共にしながら約3時間にわたって旧交を温めました。〈わ〉がNPO法人になって8年。初代理事長の赤司松美さん(生6)が、結成当時の苦労話や電話相談と未来館運営を神戸市から受託した経緯、会費を徴収することになった理由など、興味深いエピソードの数々を披露。参加者は熱心に聞き入っていました。現役員は3人が出席しましたが、「なぜ、もっと出て来ないんや」とお叱りをうけました。

### 福祉部会が活動発表会

福祉部会は11月20日(火)(13時~16時30分)、カレッジ学習室で福祉部会に所属するグループの活動発表会を開催。福祉ボランティア同士の交流を深めます。賀川記念館の語り部による講演、「賀川ハルの生涯を学ぶ」のあと、明生園もみじ会・あんだんて・クレヨン・一寸奉仕の4グループが、歌唱や手品、朗読、大道芸を披露。8グループがパネル展示をします。問い合わせは〈わ〉本部・加藤勇治まで。

### 電話相談の女性スタッフ募集



グループ〈わ〉は神戸市こども家庭センターから、休日・夜間の電話相談業務を委託されています。虐待や非行にまつわる通報を受ける仕事で、資格や専門知識は特に必要ありません。女性スタッフに欠員があり募集します。執務は、休日(土・日・祝)の8時45分~17時で月1回程度。交通費などが支給されます。やってみたいと思われる方は、〈わ〉本部(743-8101)までご相談下さい。(担当・岸本清)

#### ●一の谷プラザが臨時休館

11月25日(日)に行われる神戸マラソンで、一の谷プラザが10キロコースのゴールになり、控室などに使用されるため前日の午後と当日は全面休館となります。問い合わせは一の谷プラザ(731-8353)へ。

#### ●「ぎやらりー わ」アンケートのお願い

会報「ぎやらりー わ」とホームページについて、読者アンケートを11月末締め切りで実施します。よりよい誌面をめざし、ご意見・提案をお願いするもので、回答用紙は10月号に同封しています。ご協力ください。

#### ●61号(1月号)の発行は2013年1月中旬です。

## つぶやき

### 区会のお金は

〈わ〉の会員はすべて居住地の区会メンバーとして登録されます。ご本人の意思とは無関係です。一方、部会のグループは参加・不参加は自由ですから、どれにも入らない人も、いくつも入っている人もいます。自発性を重んじるボランティアの立場から考えるとこのほうが本来の姿と言えそうです。しかし区会はその拘束性(きわめて緩いのですが)のゆえに〈わ〉の組織を下支えする役割を果たしているのです。それでも区会には関係ないと思っている方はいませんか?これだけは忘れていただかないようお願いしておきます。あなたが《わ》に納めた年会費1500円のうち400円は無条件で区会に割り戻されるのです。在籍人数分が一括して交付される仕組みになっており、須磨区会では年に8万円ほどを受け取っています。これは皆さんが出してくださったお金にほかなりません。

それをどう使うか、皆さん、関心を持たずに済ませておいてよいのですか?区会運営に対して発言する権利があることをぜひ頭に入れておいてください。(須磨区会長 細野恵久、福3期)

## 編集後記



★東北へボランティアに行きたいけれど、「忙しい 62%」し、「遠い 55%」から無理、との世論調査結果が出ました(8月4日・読売朝刊)。カレッジ関係者も同じような傾向じゃないか、と感じています。この1年半で意識が変化しており募金への熱が冷めつつあることなどが理由です。今後どういう形で支援を継続したらいいのか、か問われる秋です。

★第3次東北支援チーム17人が、“大役”を果たして帰ってきました。銭太鼓や歌のメンバーを新たに加え、現役も4人という混成チームでしたが、皆さんやる気満々で仮設の方々や子供たちに楽しんでもらえたと思っています。11月には女川・石巻から講師を招き、報告会を開きます。東北大地震への関心を持ち続けよう、との願いからです。

★東北ばかりじゃないよ、と叱られそうですが、夏休みは子供たち向けの行事がいっぱい。夏祭り・昆虫採集・工作塾…。「すごい盛り上がり」とはスタッフの感想ですが、写真や記事でその雰囲気だけでも感じていただけたでしょうか。(広報・南形徹)

# 恐竜人気にあやかって



【写真】④恐竜シノちゃんに乗って⑤紙トンボづくり⑥⑦血回し⑧ヨーヨー釣り⑨わの野菜店（西山久雄・南形徹撮影）



## かえっこ バザール

好きなおもちゃを探して遊ぼうー8月5日、「かえっこバザール」(へわ)と常盤大学共催)がカレッジホールで開かれ、500人を超す家族連れでにぎわいました。会場には集まったおもちゃや本などがいっぱい並び、子供たちは目を輝かせてお気に入りの品物ゲットに夢中でした。  
(写真・木村成夫)



## グループわ 10～12月のイベント

開催日時・場所	テーマと内容	問合せ先
10月11日(木)10時～15時 しあわせの村 球技場	グラウンドゴルフ大会 グラウンドゴルフを楽しむ	グループ わ 743-8101
10月20日(土)10時～15時 神戸市シルバーカレッジ	地域交流と文化の祭典 子ども達のグループ発表を通して地域と交流を深める	グループ わ 743-8101
10月20日(土)12時30分～15時 灘浜サイエンススクエア	灘浜サイエンススクエア自然研究 不思議な「ミクロの世界」を体験しよう	こうべ環境未来館 995-3196
10月24日(水)9時～11時30分 神戸市立竹の台小学校	日本伝統文化体験講座 茶道、生け花、銭太鼓、大正琴体験講座	グループ わ 743-8101
11月20日(火)10時～12時 神戸市シルバーカレッジ	第3次東北支援報告会 女川町から講師を招待。派遣メンバーの体験報告	グループ わ 743-8101
11月21日(水)9時30分～15時 箕面・六個山	秋の森林浴ハイキング 紅葉を愛でながら、秋の山道をのんびり歩く	グループ わ 743-8101
11月24日(土)10時～15時 こうべ環境未来館	自然を感じて遊ぼう 未来館周辺の地域を探索しよう	こうべ環境未来館 995-3196
12月8日(土)10時～15時 こうべ環境未来館	地球にやさしいクリスマス・リースづくり ～服育 de エコ～ クリスマス・リースづくり	こうべ環境未来館 995-3196

●地域交流と文化の祭典(10月20日)のプログラムと森林浴ハイキング(11月21日)の詳細はグループ〈わ〉のホームページをご覧ください。

## 汗だく村祭り人出6000人

しあわせの村祭りが7月28日午後から夜にかけて、中央緑道・芝生広場一帯で開催され、家族連れら6000人の人出で大賑わいでした。

グループ〈わ〉の担当はわんぱく広場。木工・昔遊び・皿回し・動物風船・コマ回し・竹馬・ペタンク・サッカー測定などのブースを設け、子供たちに楽しんでもらいました。恐竜のシノちゃんに乗って写真を撮るコーナーや風船アートのブースでは、長い列が続きました。

緑道には約40の模擬店が並び、〈わ〉の店では野菜(生環9期)、竹炭(ケナフ)、玩具(西区会)を販売。「トマトが真っ先に完売した」そうです。国際友の会も雑貨店をオープンしました。

舞台では各団体がダンスや民謡



を披露。夜にはキダタロウのコンサートも開かれました。このほか、ポニーの乗馬教室、パターゴルフ場、お化け屋敷もあり、子供たちに大もてでした。

〈わ〉関係のスタッフは昔遊び33人、うらしまたろう6人、ペタンク4人、北区会5人、本部16人。35度の猛暑にめげず、汗だくでがんばってくれました。(事業担当・井口久美子)



## 親子で夢中 工作塾

㊤モバイル㊦昆虫採集㊧作った作品やバッタを手に。写真=木村成夫・南形徹



## 和服のイケメン君

花山小（北区）で7月5日、今年も日本文化体験教室が開かれ、6年生76人が着付け・銭太鼓・お茶・生け花・大正琴のグループに分かれチャレンジしました。アメリカ、フランスからホームステイで来ていたイケメン君2人も、着付けに飛び入り参加。和服姿にりりしく変身して、女の子たちに囲まれにこにこ顔でした。（広報・徳原尚代）



## 七夕まつり

フルーツフラワーパーク（北区）の七夕まつりが7月1日開催され、家族連れ200人が願いごとを書いた短冊やくす玉・折りツルなどをササに取り付け、七夕飾り作りを楽しみました。昔遊び研究会のスタッフ18人がお手伝いしました。=写真㊨

9月16日には、同パークで昔遊びフェスティバルも開かれ、500人の参加者でにぎわいました。けん玉、竹馬、ブンブンゴマ、紙トンボなど7種の遊びが自由にできるとあって子供たちは大喜び。昔遊び研究会26人が先生役を務めました。=写真㊩（事業・木田育義）

## トピックス

